

授業改善プラン

地域名	北総教育事務所	学校名	神崎町立神崎小学校
-----	---------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○令和5年度と令和6年度で、ともに文章や図表などと結びつけながら情報を読み取ること、また、学習に対する興味関心に課題が見られた。令和5年度では説明的文章の読解、条件に沿って書くことにも課題が見られ、令和6年度では、書くことについては改善が見られたが、読み取ったことをもとに考えを記述することについてはまだ課題が見られた。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 「話したい」「聞きたい」という思いがもてるような仕掛けを工夫し、児童同士が考えを話したり書いたりする場面を全ての教科で設けていくことにより、主体的に伝え合うことができるであろう。
- 説明的文章の読み方や学年ごとの目標を明確にし、「単元のめあて」を意識した授業づくり、振り返りの方法の精選、「自分の言葉で学習のまとめを書く」ことを継続することで、文章の内容を読み取る力や、目的や条件に応じて書く力の向上を図ることができるであろう。
- 並行読書の推進、言葉ブックの活用、文章読解5分間ドリルの継続などにより、学びの土台となる言語能力向上を目指せるであろう。

3. 具体的な実践

- 全国学力・学習状況調査の結果分析の共有と課題解決に向けた手立ての検討
- 教師の指導力アップのための相互授業参観
- 自分の言葉でまとめや振り返りを書くことの継続：振り返りの視点の提示
- 「言葉ブック」の活用：光村図書の「言葉の宝箱」を掲載し、全校児童に配付し、授業で活用
- 単元のめあての設定：学習指導要領の読み合わせ⇒つけたい力を明確化⇒児童に伝える「単元のめあて」の設定
- 主体的に伝え合う手立ての工夫：発問や言語活動の工夫、話合いの視点や聞く視点の提示など
- 文章（資料）を読み取る力をつけるための手立て：文章と資料の読み方をスモールステップで指導
- 並行読書：単元に関する書籍を学級に置き、授業でも活用
- 読解ドリルの活用（朝の学習タイム）
- 「伝え合い」と「資料の読み取り」の視点で年間指導計画の見直し

4. 成果

- 「単元のめあて」と「振り返り」を、教師と児童が意識することで、指導の内容が精選されるとともに、児童自身が自分の学びの過程を捉えることにつながった。
- 授業のまとめや振り返りを継続することで、書く力、まとめる力の向上が見られた。
- つけたい力に沿って、説明文や資料の読み方を丁寧に指導し、指導した読み方を継続することで、読み取り技能の向上が見られた。
- 伝え合いの視点や聞く側の視点を与えることで、ねらいに沿った伝え合いができ、話合いに深まりが見られた。

◆担当指導主事から

- 神崎町立神崎小学校では、学校の実態に即して昨年度の研究を発展させ、説明的文章の指導を中心に「伝え合い」と「読み取り」に焦点を当てた実践を行った。児童自身が、単元及び本時の目標を理解した上で授業に臨み、目標に則って毎時の振り返りを行うなどの取組を行うことによって、学びを深めることができた。また、日頃から「言葉ブック」等の活用をすることで児童の言語能力を向上させた。